

現代の日本における筆順の必要性

抄 録

現代の日本において筆順指導を受けた結果、どれほど規範的な筆順は身につけているのか。また、その成果より、学校教育において筆順指導の価値・必要性を考察するために、現状の学習成果と筆順に対する意見をアンケート調査で集めた。その結果、不正解の割合が28.8%と学習成果としては低い結果となった。筆順の必要性については、多くの人が必要であるという意を持っていた。しかし、常に必要とする教育に反して、規範的筆順の定着がなされていないと考える。したがって、全体を満たすためには低学年の漢字・部首・部分について筆順の指導を徹底して行うべきだと考えた。また、機能性を実感させるような、筆順の存在価値を教育すれば、不要と感じる人は減るだろうと考えた。

キーワード：筆順，個人的筆順，規範的筆順，学校教育

1. はじめに

1.1 研究動機

日頃から、規範的な筆順の存在に対し疑問を抱いており、個人内の筆順が蔓延している現代において、規範的筆順は必要であるのかと考えている。筆順を学校教育にて学習した結果、どれほど規範的な筆順は身につけているのか。また、調査を通し、学校教育での指導の価値・必要性を独自の考えで明らかにし、考える機会を設けたいと思い、今回の研究テーマとした。

1.2 研究目的

個人内筆順がよく用いられる現代において、規範的筆順が世間一般では身につけているのか調査し、その中で規範的筆順についての考えを問い、必要性について考える。

2. 研究方法

2.1 文献調査

筆順に対する考え方や、間違いの起こる漢字の形・筆順を調べる。

2.2 アンケート調査

2.2.1 一次アンケート [中学生38人（男子18女子20，右利き33左利き5）に実施]

文献調査を追試する形で、筆順を間違いやすい文字形を参考にし、その文字形の含まれる漢字を上位から抜粋した。その漢字の特定の画数を指してそれは何画目であるか問う質問を作成した。また、筆順の存在についてどう考えているのかを聞いた。

《内容》

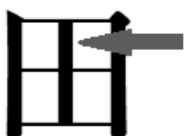
①性別を教えてください。 [男, 女]

②文字を書く際の利き手を教えてください。 [右利き, 左利き]

●以下の文を読んで、後の問題に回答してください。

筆順とは、個人の頭中に記憶されているものであり、書字の過程で紙上に具現化されるものです。このように考えた場合、個人差が前提となります。これを個人内筆順と呼びます。一方、書物に示される筆順は、広く学習者が記憶することを想定した、規範性を伴ったものです。これを規範的筆順と呼びます。(松本, 1997) 今回の研究では、個人内筆順は規範的筆順にしっかりとなぞられたものとなっているのか調査します。直感的に普段用いている筆順で回答してください。

●画像内で赤矢印で印されている画が何画目であるか教えてください。



③田 ④金 ⑤長 ⑥弁 ⑦右 ⑧状 ⑨生 ⑩可 ⑪万
⑫上 ⑬成 ⑭打 ⑮王 ⑯快 ⑰皮 ⑱臣 ⑲非 ⑳馬

左図のような画像を全文字用意して質問した。

画を選ぶ基準は、その漢字に含まれる文字形において、最も正誤のデータが得られそうだと予想した画を選んでいる。

⑳筆順に対し抱く印象はどれに最も近いか教えてください。

[必要・重要だ, どちらかといえば必要・重要, 特に何も思わない,
どちらかといえば不要・重要でない, 不要・重要でない]

2.2.2 二次アンケート [中学生22人に実施]

文献調査の結果と一次アンケートを考察した結果を示し、筆順に対する考えを聞いた。

《内容》

①以前実施した個人内筆順についてのアンケートには回答したか。 [はい, いいえ]

●規範的筆順・個人内筆順について説明

●本アンケートでは、文献調査の結果と、前回のアンケートの結果を提示します。それを見て質問に回答してください。(後に記載する)

②規範的筆順に対し抱く印象はどれに最も近いか教えてください。

[必要・重要だ, どちらかといえば必要・重要, 特に何も思わない,
どちらかといえば不要・重要でない, 不要・重要でない]

③上の問いについて理由があれば教えてください。(自由回答)

④規範的筆順を問うテストは必要だと思うか。 [必要, 不要, わからない]

⑤学校教育にて筆順の指導は必要だと思いますか？

[常に必要, 漢字の部首・部分の指導は必要, 低学年のうちには必要, 必要ない, その他 (自由回答)]

2.3 分析方法

二度のアンケートの結果と文献調査の結果を用いて考察し、結論を述べる。

3. 結果

3.1 一次アンケート結果

①性別を教えてください。 [男子18人, 女子20人]

②文字を書く際の利き手を教えてください。 [右利き33人, 左利き5人]

○漢字	選んだ画	正解率		○漢字	選んだ画	正解率
③田	3画目	76.3%		⑬成	5画目	84.2%
④金	4画目	63.2%		⑭打	2画目	86.8%
⑤長	2画目	60.5%		⑮王	3画目	89.5%
⑥弁	3画目	81.6%		⑯快	3画目	52.6%
⑦右	2画目	68.4%		⑰域	5画目	73.7%
⑧状	1画目	63.2%		⑱初	4画目	60.5%
⑨生	4画目	97.4%		⑲皮	1画目	71.1%
⑩可	2画目	68.4%		⑳臣	2画目	55.3%
⑪万	2画目	55.3%		㉑非	4画目	73.7%
⑫上	2画目	76.3%		㉒馬	2画目	65.8%

アンケート全体での正解率は71.2%、不正解率28.8%という結果となった。

⑳	必要	どちらかといえ 必要	特に何も 思わない	どちらかといえ 不要	不要
全体	3	12	9	5	9
男子	1	6	6	1	4
女子	2	6	3	4	5
右利き	3	12	7	5	6
左利き	0	0	2	0	3

3.2 一次考察

●男子・女子の筆順に対する適応

	平均不正解数	㉓の回答の傾向
男子	6.55	意思決定的な観点で見ると不要が多い
女子	5.05	分布的に見て悪印象を抱いている人が多い

男子は女子に比べて、不正解の割合が高くなっている。人数としては必要と感じている。女子は男子に比べて、不正解の割合が低くなっているが、悪印象を持った人も多い。

●右手・左手の利き手による筆順に対する適応

	平均不正解数	㉓の回答の傾向
右利き	5.87	分布的に見て必要と感じている人が多い
左利き	5	母数は少ないが不要と感じている人が多い

左利きにとって筆順は用いづらいと思っている可能性が高い。しかし、右利きの方が不正解の割合が左利きより高いため、右利きの方は意識が低いのではないかと考える。

●全体に対する考察

	平均不正解数	②の回答の傾向
全体	5.76 (28.8%)	意思決定的な観点で見れば不要， 分布的に見れば必要と感じている人が多い

	平均不正解数
必要	4.33
どちらかといえば必要	4.16
特に何も思わない	6.33
どちらかといえば不要	6
不要	6

左の表からわかるように、必要と感じている人は正解率が高く、感じていない人は低い。また、特に何も思わないを選んだ人は不要と感じる人よりも関心が薄いため平均不正解数が多いのではないかと考察した。

3.3 二次アンケート

①以前実施した個人内筆順についてのアンケートには回答したか。

[はい20人，いいえ2人]

●用語について（松本，1997）

筆順とは、個人の頭中に記憶されているものであり、書字の過程で紙上に具現化されるものです。このように考えた場合、個人差が前提となります。これを個人内筆順と呼びます。一方、書物に示される筆順は、広く学習者が記憶することを想定した、規範性を伴ったものです。これを規範的筆順と呼びます。

●規範的筆順の肯定意見・批判的意見（松本，1997）（松本，2012）

[肯定意見]

- ・文字が書きやすい。（運筆に無駄がない）
- ・文字を整えやすく、読みやすい。（全体の形や線の方向が安定する）
- ・文字を覚えやすくする。（同じ形は同じ筆順というルールがある）
- ・学校教育の現場での混乱を防ぐため。

[批判的意見]

- ・文字を書く過程の「整えやすさ」等の機能性で筆順を判断するならば、筆順は複数あってもおかしくない。
- ・筆順は役に立つ条件を満たしていれば絶対の正解を求める理由がない。
- ・社会での常識とされる筆順は、複数ある場合がある。
→規範的筆順は過去一定ではなかった。
- ・規範的筆順の「運筆に無駄がない」と「文字を整えやすい」には矛盾が生じることがある。
- ・文字を覚えやすくするという目的の中、規範的筆順で統一し、漢字検定などテストに出す必要性はあるのか。
- ・筆順の根拠が文字によってばらばらで、疑問点が多い（右と左など）

●前回のアンケートの結果（3.2の情報を記載）

②規範的筆順に対し抱く印象はどれに最も近いか教えてください。

②	必要	どちらかといえ 必要	特に何も 思わない	どちらかといえ 不要	不要
全体	3	8	3	2	6

③上の問いについて理由があれば教えてください。(3.4にて記載)

④規範的筆順を問うテストは必要だと思うか。

④	必要	不要	わからない
全体	4	16	2

⑤学校教育にて筆順の指導は必要だと思いますか？

⑤	常に必要	漢字の 部首・部分の 指導は必要	低学年の うちは必要	その他 肯定的意見	必要ない
全体	8	3	5	3	3

3.4 二次考察

①回答の実施・未実施の差

得に見られなかった。未実施者が2人しかおらず違いを見つけられなかった。

②, ③印象による筆順に対する考え方の差

●肯定派の意見（必要3人、どちらかといえば必要8人）

- ・規範的筆順により漢字の形の個人差が減って識字しやすくなる。
- ・文字を覚えやすい・書きやすい・整えやすい, 伝統である, 礼儀である など
- ・必要と回答した人は、筆順の教育が成功しており、現実に対する必要性の実感がある。
- ・どちらかといえば必要と回答した人は、筆順の機能性を無意識のうちに実感できており、成り立ちや意義についても意識がある。

●中立派の意見（特に何も思わない3人）

- ・書ければ何でもよい。自分の記憶で書きにくさを感じない。
- ・どちらかといえば否定的な意見。

●否定派の意見（どちらかといえば不要2人、不要6人）

- ・例としては必要。書きやすく書けばよい, 形, 字として成立していればよい。
- ・左利きには厳しい, 教育方法に問題がある など
- ・漢字に対しては、美しさを意識するため, 過程はどうあってもいいという考えがあり, 基礎の教育ができていれば良いと考えている。

④筆順テストの必要性について

規範があっても統一させる必要はないなど, テストに対しては不要が大意である。

⑤学校教育での必要性について

常に必要	36.4% (40.9%)	割合は高いが、肯定的である人間に大きく偏っており、社会的なニーズに合っているとは考えにくい。
低学年のうちには必要	22.7% (27.2%)	基礎を固めることを重視していた人が集中している。初歩的な力が身につけば良いと考えているのなら、この考え方が妥協点になる。
漢字の部首・部分の指導は必要	13.6% (18.1%)	低学年のうちには必要と組み合わせて教育すれば、大きくニーズを満たせる教育になるのではないかと考える。
イレギュラーに必要	4.5%	これは基礎を理解した上での考え方なので、低学年のうちには必要と統合できる。
テストに出るため徹底すべき	4.5%	常に必要と統合できる。
最低限の筆順は教える	4.5%	漢字の部首・部分の指導は必要と統合できる。
必要ない	13.6%	必要ないという意味が固まった人の意見が表れたため、偏りが大きく、合意できる意見であるとは考えづらい。

常に必要と考えるのが従来と変わらず良い方法であるのは間違いないが、不正解率28.8%の結果を見ると、その方法が結果として意識の向上には繋がっていないと考える。筆順の学校教育の必要性は高いと言えるため、他の方法を用いると良いのではないか。

4. 結論

二度のアンケートの結果、筆順を常に必要とする教育は難しく、全体のニーズには合わないということが分かった。そこであえて筆順教育を定着させるには、低学年の漢字・部首・部分について指導を徹底して行うべきだと考えた。また、書きやすく書ければよいという考えがある反面、筆順自体は「常識である」など必要という概念は根付いている。規範的筆順を不要と感じる人を減らすためには、意識が高いほど不正解数が少ないという点から、機能性を実感させるような、筆順の存在価値を教育すればよいと考える。「存在価値をどのように教育するか」を考えることが今後の課題である。

参考文献

- 齋木久美 (2007) 「筆順の「誤り」に関する研究」
<https://ci.nii.ac.jp/naid/120000990993>
- 松本仁志 (1997) 「いわゆる正しい筆順の幻想」
<https://home.hiroshima-u.ac.jp/forum/29-2/hitujuun.html>
- 松本仁志 (2012) 『筆順のはなし』 中公新書ラクレ
- 文部省 (1959) 筆順指導の手引き